

国有林モニターを経験して。

岩手県 柳澤峰夫



管理経営に関する基本計画の実施状況」を読むことで、現在の森林状況や各森林管理署の取組事例を認識することができ、国有林事業の役割、これからの課題や問題点を勉強することができました。

全三回の現地見学会では「治山事業への取組」、「幼木の保育現場見学」、「高性能林業機械を使用した伐採作業の見学」、「海岸防災林復旧事業の現場見学」、「海岸防災林再生のための植樹」、「カラムツ低密度植栽試験地の見学」、「シカ被害の現地見学」の各箇所を見学し更に現地で貴重な体験をしたことで、国有林事業の大きさを肌で感じ大変、感動を覚えました。

今回、国有林モニターを経験したことで、「森林の大切さ」や「林業の再生」、「国有林事業の取組」が一部の人だけではなく、国土保全のために国民全員で共有されることが必要不可欠なことで、様々な広報活動を利用して伝えるべき事項があるのではないかと思います。

長期的な国有林の事業形態で利益優先な時代ゆえ、短期的に結果が得られることが難しい事業なのですが、未来を見据えた若い世代の参加と教育、森

林とふれあう場所の提供と木の保育は、特に必要なのではないでしょうか。将来、子供たちが豊かな国土で森林の恩恵を受け生活できる国土作りを進めていただきたいと思います。

また、現地見学会で他のモニターの方々のお話を聞きますと、森林から様々な恵みを受けたり、野生動物の被害を受けたりと、お話することで貴重な交流ができて楽しい時間を過ごすことができました。そのような貴重な体験やお話を、森林保全事業の取組に何か参加できる機会(場所)があれば良いと感じています。意見や感想を伝え合う国民に開かれた場所があれば、国有林の知名度も上がり、早急に取り組むべきことも見えてくるのではないのでしょうか。

先日、情報誌の掲載記事から、「伐期を向え伐採できない木が多数あり、担い手不足や伐採費用の面から伐れない森林がある」ことを知りました。伐期を向えた森も、若い森林(世代)に生まれ変わらなければ、立ち枯れや立木の害虫被害が進む要因の一つで森林を無駄にしていると思いました。このような実情に対して、官だけで完結する事業形態から民間をもっと活用して事業を推進する新しい取組ができれば、豊かな国土の森作りが進むのではないかと思います。

今後も国有林モニターで得られた経験を基に、森林づくりの取組に参加して行きたいと思っています。最後になりますが、東北森林管理局の皆さま、寄稿の機会をいただき、ありがとうございました。

軽登山が好きで仕事柄、民有林の立木伐採や森林所有者の方たちと関わり合いを持つ仕事をしているため、間接的には国有林事業を知っていたものの、もっと詳しく知りたいと思い、居住区の広報をきっかけに国有林モニターへ応募をしました。

毎月の広報や数々の特集記事、冊子「国有林野の